

## 「福井市総合計画審議会」 第5回 第1部会

■開催日時：平成22年9月28日（火）14：00～16：00

■開催場所：福井市役所 別館 第13会議室（A）

■出席者：別紙のとおり

### ■会議内容

#### 1. 開会

司 会

---

それでは皆さま、お疲れさまでございます。まだ、ちょっと5分ほど早いのですが、森下さんがちょっと遅れるという連絡を受けております。そのほかの皆さんがおそろいですので、福井市総合計画審議会の専門部会第1部会の5回目の会議をただいまより、開催したいと思います。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

#### 2. 市民憲章唱和

司 会

---

それでは、まずはじめに、市民憲章の唱和を行いたいと思います。恐れ入ります、ご起立お願いいたします。

市民憲章は、会議次第の裏面にございますので、よろしく願いいたします。

私が前文を朗読いたしますので、それに引き続きご唱和をお願いいたします。また、実践目標についても合わせてお願いをいたします。

————— 市民憲章唱和 —————

ありがとうございました。ご着席ください。

#### 3. 議題

司 会

---

それでは、以後の審議につきましては、高田部会長さんの方でお願いします。よろしく願いいたします。

#### 【（1）将来都市像について】

高田部会長

---

それでは、審議を始めさせていただきますが、まず、今日の議題、主に将来都市像についてですけれども、その将来都市像について事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局（吉村室長）

---

はい、すみません、将来都市像の前に、1点、政策③のところで修正のご提案がございますので、A3横長のペーパーをちょっとご覧いただきたいと思います。政策③「環境にやさしい持続可能なまちをつくる」というところでございます。赤い部分が前回、この部会で修正という部分で「行政が」というのを付け加えておりますけれども、上の見出しのところでもありますけれども、緑の字で「環境を守り低炭素社会の実現を目指す」としてしておりますけれども、実はこれはほかの部会の方から提案がございました。「環境に配慮した都市をつくる」というのでも、配慮という言葉で、だいたい意味は分るんだけど、具体的に「環境を守り低炭素社会の実現を目指す」という形の方がこの中身に書いてある文が分かりやすいのではないかと、というようなご提案をいただきましたので、こういった形で提案をさせていただきまして、これでよろしいかどうかを確認をまずしていただきたいと思います。

それから、資料の方は続けて説明の方をさせていただきます。本日、お配りしている資料で資料18がございます。ちょっと厚いですが、福井市市民意識調査報告書でございます。前回の部会のときに、速報版でちょっと内容をご説明したところでございますけれども、単純集計に加えまして、地区ごとですとかあるいは性別ごと、年代別、そういった形でいろんな視点から見た形で、分析を加えた資料で、ちょっと厚くなっております。

それから、これの大まかな傾向というのについては、ちょっと次第書の方をご覧いただきたいのですが、次第を1ページめくっていただきますと、平成22年度市民意識調査分析概要というのがございます。ここで、大まかな概要だけちょっと簡単に書いてございますので、ちょっと説明をさせていただきます。

1点目の「福井のまちへの思いについて」これは、総合計画の前の市民意識調査としては5年前と今回とちょっと経年の変化を比較しておりますけれども、まちへの思いについては、18年度と比較して大きな変化はございませんでした。住みやすいと感じている人、それから今後も住み続けたいと思っている人が多数を占めている状況にございます。

それから2点目。今後のまちづくりについてですけれども、これも前回の調査と同じく安心して暮らせる安全都市というのが、他の項目より圧倒的に多い状況でございます。それから、生活環境については、前回とこれもほぼ同じでございます。4点目の市役所の仕事についてでありますけれども、ここの部分では、高齢者福祉や介護福祉など高齢者に関する仕事に対して、力を入れてほしいという意見が前回の調査よりも増加傾向にございます。全体的に、高齢社会が進んでいる、とそういったことの表れだと思っております。

一方で、防災体制や河川整備など災害に関する仕事について力を入れてほしい

というご意見につきましては、前回よりも減少傾向でございます。これは平成16年に福井豪雨がございました。そこで非常に前回の調査のときには、力を入れてほしいというところにそういった部分が多かったんだと思いますけれども、その後、貯留管の整備ですとか、河川の整備、ある程度浸水対策が進んでいることもあるんだと思いますけれども、防災関係については減少傾向でございます。

それから、5点目の施策の満足度・重要度についてですけれども、この中では「活力と魅力溢れる産業をつくる」という部分が昨年度まではだいたい中盤といいますか、不満度も重要度もだいたい真ん中ぐらいでありましたけれども、今回の調査では満足度が大幅に減少、逆に不満度の重要度は引き続き増加していると。これは社会経済情勢をちょっと表しているのかと思います。大まかな傾向としてはこういった傾向が見られたところでございます。

それから、次に資料の19です。これは、総合計画審議会に諮問をしました総合計画の諮問案について、市民の皆さまに対してパブリックコメントを募集いたしました。その結果、全体で約20件程度のご意見をいただいたところでございます。こちらとしては主に将来都市像についてコメントをいただきたい、ということで、将来都市像について約10件程度、ご意見をいただいております。表紙のところにパブリックコメントでの将来都市像の提案ということで、1件だけ将来都市像としてこういうのがいい、という提案がございました。これが枠の中に入っておりますけれども、「笑顔が輝き 活気溢れる生活安心No.1都市 ふくい」こういう提案をいただいております。

それから、1ページをめくっていただきたいと思いますが、将来都市像についてのところで、主な意見だけざっとご紹介したいと思いますが、1番のところでは、「生活安心」ということが訴えたい部分であれば、それが明確に分かるようなデザインに工夫をすべきではないか。それから、2番目のところでは、「生活、安心」という言葉が受身的な印象を与える言葉である。もう少し活動的なイメージを出した方がいいのではないかと、というのが2点目のところに検討意見としてございました。

3番目のところですが、3番目の方は、基本目標が4つある中で、「みんなが生き生きと働く都市」ここをもうちょっと最優先して将来都市像を定めてはどうか、というようなご意見でございます。この中で単なる生活安心ではなくて、日本でナンバーワンを目指す意気込みが必要というご意見でございます。

それから、また、1枚をおめくりいただきたいと思いますが。8番目のところでは、県人口の3分の1を占める県都福井としての県を導くリーダーシップのようなことを示すことも大事ではないか、こういう意見もいただいております。次のページ以降は自由意見としていただいた部分でございますが、また、こういった部分も目を通しておいいただきたいと思います。

それから、ちょっと次第の方に戻っていただきまして、次第の2ページ目でありますけれども、各部会でおまとめいただきまして、現在こういった点が総合計画の体系図になっております。その後、ご議論いただくのは、将来都市像の部分ということになりますので、この体系を思い浮かべながら将来都市像というもの

を、また考えていただきたいと思います。そういう意味で、ちょっと体系図も付けております。

それから、資料番号はちょっと入っておりませんが、A4の横版で私の考える福井の将来都市像。この資料はおめくりいただきますと、本日の第1部会の皆さまからご提案、宿題をお願いをしていた部分でございますが、将来都市像とこのコメント、第1部会の方からは1番から5番までのところでいただいております。さらに、本日欠席の森下様からは、本日、FAXでいただきまして、ちょっとこの中には入っておりませんが、こういったFAXの用紙の部分でご議論いただいておりますので、都合6件のご提案をいただいております。

それから参考までにその後ろの方で、第2部会、第3部会、第4部会についても、ご意見をいただいたものを参考として付けておりますので、これもまた、議論の参考にしていただければと思っております。

以上、全体の審議結果、それから本日の将来都市像を分類するにあたっての追加で出ささせていただきました資料についてご説明申し上げました。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 高田部会長

---

どうもありがとうございました。それでは、まず、その一番最初にありました、A3の横長の方をご覧くださいと思います。第1部会の基本目標に基づいて政策がいくつか挙がっています。全部で5つ挙がっていますが、「環境にやさしい持続可能な都市をつくる」の施策の中の右側ですけれど、「環境に配慮した都市をつくる」というのをもっと文言の中にある低炭素社会といったような事柄を入れて、「環境を守り低炭素社会の実現を目指す」というふうにしたいということですが、このことについてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

#### 堀内委員

---

より具体的だからこれでいいんじゃないんですか。

#### 高田部会長

---

よろしいですか。はい、特に何かありますでしょうか。特にご異論がなければ、これはこれで1部会としては認められたということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは引き続きまして、将来都市像についてというところですが、まず今いろんな形でご説明いただきました。市民意識調査、それからパブコメ、それから、皆さんがそれぞれをお考えいただいた将来都市像というものが書いてあるわけですが、それでこれは前回の話の確認ですが、将来と都市像は専門部会としても、第1部会として考えているわけではなくて全体として考えてということでしたよね。はい、で、皆さんそれぞれご提案いただいたものがあるわけですが、このことについていかがいたしましょうか、ということで、参考資料として先ほど、意識調査とか、パブコメとかいったようなものを含めてご紹介いただきましたけれど、いかがいたしましょうか。

まず、それぞれの皆さんがちょっとご覧いただきまして、まずはこの部会の皆さんがどのような形のものを書いてくださったのかというと、「私の考える福井の将来都市像」の第1部会から第4部会というところで、1ページ目と2ページ目、これは第1部会ですね。それをまずは皆さんにそれぞれ皆さんの思いというか、そういうのをご説明していただきたいということなのですけど、いかがいたしましょうか。

まずは、一通り回ってご説明していただいた上で、ほかの第2部会、第3部会、第4部会のそれぞれ参考にしていただいた上で、考えていくということだそうですね。ではまず、将来都市像のこのそれぞれのところについてご説明いただいてもよろしいでしょうか。よろしいでしょうか。それでは大変恐れ入りますが、1番から「夢と希望 安心安全な街づくり」、コメントとしていろいろと書かれておりますけれど、これをご説明いただけますでしょうか。これはどなたが第1部会のどなたが、たぶんどなたかが書かれたということなんだと思うんですけどいかがでしょうか。それは私の、ということで手を挙げていただいて。

堀内委員

---

私が書いたものです。

高田部会長

---

そうですね。よろしいですか、すみません。お願いいたします。

堀内委員

---

福井市は今でこそ、災害がないというか、まあ、数年前には水害がありましたけれども、戦後は本当に災難の連続の地域だったんですね。高齢者の中にも、「福井は災害がなくていいね」という言葉も聞くんですけども。地震大国でありますから、必ず災害はあるし、毎年台風、地震など、そういうものを含めて、特に環境が、全体的に温暖化の進行をみるようで気候変動が激しいという状況ですから、必ず災害が起こるということは覚悟しなければならない。そういう意味では行政も盛んにそういうこと、水害を機に手を尽くされてきたと思うんですけども、人間の想像以上の災害はやってくる可能性もないとは言えない。そういうことから、やはりそういうことは進めていただかなければなりません、これから、やっぱり地域の歴史的価値あるものを発掘、検証とか、そういうことで、物語風的な埋もれたものを掘り起こしてそれに磨きにかけてものを作り上げていかなければならないのではないかなと。そういう意識の調査とか、そういう市民の目線を見据えながら、それをとらえていったらいいと思いますね。そんなところだと思います。

高田部会長

---

で、よろしいでしょうか。コメントのところに、今のものを簡単にまとめられたものを書いてありますけれど。長い年月の中で、そういった歴史的なものも含めたものを託したものとして、「夢と希望 安心安全な街づくり」ということを書かれているということだそうです。何か皆さんのところでご質問とかあります

でしょうか。よろしいでしょうか。はい。

それでは一通りざっとやって、そして皆さんの方からいろんな議論をいただきたいと思いますけれど、最初にそれぞれ第1部会の皆さんがご提案いただきましたものをご紹介ここでいただきまして、そのあと第2部会、第3部会、第4部会のものをざっと見て、その上でどうしましょうかということについてご検討いただいたらいいかなというふうには思うんですけども。よろしいでしょうか。いろんなものがあって、帰ってきたという、フェニックスというその意味合いもあるのかなと思いますけれども、それでは2番目の「かえりたくなるまち ふくい」これはいかがでしょうか。お願いします。

---

#### 刀禰委員

私は「かえりたくなるまち ふくい」というのにしたんですけど、その意味というか、私の考えは、まず、最初に思い浮かんだのは、私の友人が大学とかで県外に出たときに、あまり福井に帰ってこないという現状が、就職とかで帰ってこないという現状があるということを知って、それはどうしてか、っていうのを聞いたら、やはり都会の方がいろいろあるからあんまりっていう感じだったんで、そういう方たちに帰ってきてもらえるような活気のあるまちにしてほしい、していきたいというのがまず最初に浮かんで。

その次に、この福井市に今実際に住んでいる方も自分のおうちだったりとか地域に帰りたいと思うようなまちづくりをしていくべきなんじゃないかというのが2点目で、最後に、今、都会で働いていらっしゃる方にも、観光とかで福井に来ていただいて、そのいい意味で田舎が残っている福井に帰ってきてもらって、来てもらって、疲れた心を癒してもらえるような都市にしていけたらいいんじゃないか、という思いを込めて作りました。

---

#### 高田部会長

活気あるまちと日本の風景、田舎の風景が残る、癒されるまち、両方を込めて「かえりたくなるまち ふくい」もしくは「かえりたいまち ふくい」という形にしたということだそうです。何か皆さんの方でご質問とかありますでしょうか。よろしいでしょうか。

---

#### 堀内委員

うちの息子も帰ってきませんが、やっぱり帰りたくないというのはやっぱり、就職口が少ないとか、魅力ある企業とか、そういう数が少ないんだらうと思いますよ。

---

#### 高田部会長

そういうことですかね。

---

#### 刀禰委員

はい、そういうことです。

---

#### 高畑委員

いいですか。

高田部会長

---

はい。

高畑委員

---

僕も今の福井に帰りたいということですけども、私の子どもはご存知かも知れませんが、交通事故で亡くなったんですね。そういうときに大学が終わって、私も福井は車いすの息子やっただ、雪が降るし福井は、気候もあまり良くないし、車いすの便も、道路とか今の状況があるで、本人は、名古屋で専門学校で社会福祉の勉強をしたいというので行ったんですね。僕は、「もう福井に帰ってくるな。福井より名古屋の方が環境もいいし、生活するにはものすごく良い」と言って帰ることを期待してなかったんで。

ところが、1年ほど資格を取ってあてなしに、福井に戻るって言いにかかったんですね。それで「なんでや」と聞いたら、結局うちの息子は、こういうふうな福井のまちが良いので帰りたいわけじゃなくて、福井の福祉、障害者に対しての状況がすごく悪いので、俺が福井に帰って大きい言葉で言うと少し直したい、という思いで帰ってきたいと言って帰ってきたんですけど、結局今、彼女が言ったような思いも、やっぱり、福井というのは、何か新聞ではいろいろ住みよいまちとか書いてありますが、実際に住むと若者に対する夢というのは、こういうマイナスイメージしかないみたいやね。それを駅前の一つの開発にしても、もっとみんなが「やっぱしな」というようなことをしてほしいな、ということを僕も思いますね。

ただ、言葉だけはなかなかあれで、たまたま俺の息子は帰ってきましたが、結局そういう人はそういう人で少しでも福井をよくしたいという思いがあって、という感じでしたね。参考になるかどうか分からないですけど。

高田部会長

---

ふるさとだから良くなってほしいという思いは、あったのかもしれませんがね。

高畑委員

---

僕ら年寄り、子どもがかわいそうな目に遭うのは嫌で、都会の方が少しはいかな、という思いでいたんですけども、そんなことで帰ってきましたんですけどね。

高田部会長

---

そういうところにちらちらと福井に対するいろいろな要望というか、そういうの、働きたいと思う職場とか、それか今おっしゃったようないろいろな福祉をもう少しより良いものになる、というようなものやっけていきたい、というのもあると思いますね。ほかはいかがでしょうか。

谷口委員

---

今これ「日本の心」か、これ私ちょっとピンと来たんやけども、県都福井市と

いう言葉を20年30年後に考え直さなければならない、というようなことを書いてあったよね。この言葉を利用させてもらって、「ふくい心の里」そういうような文面でこの言葉を活用できないかということを、ちょっと考えましたけども。なかなかいい言葉じゃないかな。

高田部会長

---

ふくい心の里。

谷口委員

---

ぜひ、県都福井市というんじゃなしにね。「日本の心の里 福井市」ってなかなかいい言葉になるんじゃないですか。

高田部会長

---

いろんなものから刺激されてより良いものになっていけばいいかな、と思うので、いろんなアイデアをぜひ出していただければと思いますけれど。ほかに何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは引き続きまして3番目の「ともに創ろう高齢者の輝く地域とくらし」これはいかがでしょうか。

高畑委員

---

これは私。前回の会議にちょっと私の思い、高齢者の将来のことが心配だという意味でこういうふうの一つ問題提起したんですけれども。結局、いろんな災害にしても、それから地域の生活にしてもやっぱり人と人の流れが一番大事みたいですね。で、最近核家族でだんだんと人の輪が少なくなってきた、さっと来たときに、お互いに手伝いができない状況みたいで。

これは私の100%の考えじゃないですけど、いろんなものを聞いたりしたときに、やっぱり神戸の地震なんかでも消防署の人が言うのは、隣近所の関係の良い地域では災害が少なかった。被害を被る人が少なかったという話を書いてあったのと、そういうなんでやっぱり、昔から言うように向こう三軒両隣は仲良くした方がいいんでないかということのをこれからも、もっと続けてほしいという思いと、それから、半径500メートルというのは、年寄りがだんだん自分で外へ出る範囲が狭くなりますんで、そういったときに生活するのにどうしても食べ物とか医療とかそういうものが身近になとなかなか極論につき生きていくにも大変なことになるのかなと思ひまして、そういうことで、やっぱり、ものすごくお金のかかることかも分かりませんが、せめて500メートルの範囲でちょっと生活ができるようなものが、考えられるようなものがある町になってほしいなという思いですね。

高田部会長

---

高齢者にとって、暮らしやすい地域は、他の方々にとっても暮らしやすいという意味で「ともに創ろう高齢者が輝く地域とくらし」という形で、生活圏域も含めていろいろと考えるとみんなが暮らしやすいまちになるのではないかと、という思いだそうです。何か、はい。

#### 加畑委員

---

私もこれ、「ともに創ろう高齢者が輝く地域づくり」ですね。私も高齢者の1人で半径500メートル向こう三軒両隣と書いてありますね。これは出発点をして非常に大事ではないかと思うんですけど。先日も地区の敬老会がありまして、なかなかみんな出てこない。元気な者が出てこないというので、やっぱり向こう三軒両隣という出発点をもう少し強く理解していただいたらいいのではないかと、思うわけですね。何か、出不精というのか、人の中に入りたくないというんかね、そんな気持ちが強いんじゃないか。気楽に集まれるような雰囲気を持っていった方がいいのではないかなと思うんですけどね。

#### 高田部会長

---

そうですね。何かいろいろな事柄も実は普段からの付き合いがあると、ちょっとした催しのときにわりにスムーズに入っていきそうだけでも、そうでないとなかなか難しいというのがありますよね。

#### 高畑委員

---

年寄りほうのさいなあとと思うことがあるけど、だけど、さあとそういう年寄りは意外と力を合わせるのではないかなと思いますね。

#### 高田部会長

---

高畑委員からはぜひ私もことをというお話でしたけれども、ほかに何かご意見、いかがでしょうか。

#### 谷口委員

---

向こう三軒両隣というのは、いろいろなところに出てくるんですね、言葉が。安心安全のまちでも絶えずつきまとう言葉である。どっか、しっかりとピシッと打ち出すといいかもしれんけどね。

#### 高畑委員

---

思うとなかなか気がつかんとおかしいけど、僕もこれで文字にするとなるほどなと改めて思ったり感じるけどね

#### 堀内委員

---

そこが、しっかりしていると、災害に遭っても、一人暮らしとかと閉じこもるとか、そういう人たちの状況も早く確認できて行政も動きやすい面もあると思うんですね。だから、そういうところから、自治会連合会にしたって、その近所のことは分からないんですから、やはり向こう三軒ということなかなか難しいかもわからんけど、せめて500メートル範囲内の、いろいろ民生委員とか福祉委員とかいろいろおられることもありますけども。やっぱりそういうところのコミュニケーションというか、やっぱり人間の幸せの第一歩はやっぱりふれあいですから、そこが出発点であろうと思うので、そこから始まるんだと思います。そういう点はやっぱり考えていくことが必要やと思うね。

#### 加畑委員

---

ふれあいというんですか、それは大事やと思うんですね。うちの町内でも一人暮らしというものが何人もいまして、密集地なら分りますけれども、離れたところだとね、みんな気を付けてあげますけど、そういう一人暮らしの見守るというのはやっぱり縁遠くなってしまう、離れてますから、そうなりまして、やっぱり向こう三軒両隣というのは、範囲を広くして根強く持っていたほうがいいのではないかなと思うんですけど。

高田部会長

---

他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは引き続きまして、次のページに行きまして、「だれもが私のまちと、誇れる、ふくい」これは。

三ツ屋委員

---

これは私なんですけど。

高田部会長

---

はい、お願いします。

三ツ屋委員

---

文言的にはちょっとあまりインパクトはないというふうに自分でも思っているんですけど。今回総合計画を立てるという中で、いろんな都市づくりというものをイメージした中で、いろいろな分野ごとの現状がどうであって、課題がどうかってということで協議してきたわけなんですけど、そういった意味で、私の思いとしてはそういったいろいろな今後政策を進める上で、まちづくり都市づくりという部分を総称して、誇りという言葉でちょっと言いくるめてみたわけなんですけれども。そういった意味で、特定の分野のものを示しているっていうのはちょっといい表現にはなっていないかと思います。ある意味、ここに書いてありますように、大人から子ども、高齢者も含めて、そういった方々が何らかの形でいろいろそういう自分たちも参画しながら、まちづくりを進める中で、素晴らしいまちづくりっていうものが作り上げていく。また、それに参画することによって、自分自身が何らかの形で自分のまちはこういう形で非常に進んで素晴らしいとか、話せるようなものになれば、非常に素晴らしいんじゃないか、っていう、そんな思いでちょっと言葉的に表したものなんですけど。

高田部会長

---

ありがとうございます。誇りという言葉の中に、今出た、これまでもちょっと出てきましたけれども、文化とか歴史とか自然とか環境とか、あるいは産業もですかね。そういうものも含めて考えて、込めていると。そして、大人から子どもまでみんなが誇れるような町、ふくい、という形でこれを作りました、ということですけど、皆さん中で何かほかにこのことに関してご質問とかご意見とかありますでしょうか。

それでは、次なんですけれども、次は私でして、最後になってバタバタと考えたということなんですけど、今の三ツ屋委員とちょっと似ているところがありまして、この部会で、部会だけではなくて福井市の一つの方針として、お互いの

きずなとかあるいは協働とか、そういうのを特にこの部会ではよく話をしてきたというところもあります。何もこの1部会だけに限らないですけども、全体としてこれ非常に重要。で、もちろん、そのためには、福祉とか生活基盤というものも非常に充実していく必要がありますので、それを「希望と誇りのふるさと福井」それから「きずながみえる市民の協働」という形で、なかにを込めたということです。

また何か、ご意見ございますでしょうか。今1番から5番までいろいろ出てきた中で、一つは福井の長い歴史の中で、たくさん今、最近の若い人たちはあまり分からないけれど、これまで長く培ってきた人々にとってみれば、いろんなことがあって、そういったことも含めて、立ち上がってきた部分がありますが、いつ、こういういろんな災害等があるかもしれない、ということで、そういう話も出てまいりました。

それから、活気あるまちという点も出てきました。それから、あと福祉のいろんな問題というのが出てきました。あるいは言葉としては、「日本の心」とか、あるいは「日本の田舎の風景」と言ったようなここに出てきましたし、あるいは高齢者が暮らしやすい街というのは、地域みんなにとっても暮らしやすいという形で出てきた、というところがあります。言葉だけを拾うとそういう形があるのかなというふうには思いますけれど、どうでしょう。この言葉を生かしたらという点もいろいろと出てきたのですけれども、ほかにも何か、第1部会の中でご意見とかありますでしょうか。よろしいでしょうか。

---

#### 堀内委員

福井というのは、今でこそ金沢なんかやら新潟何かに見劣りするようになっていすけれども、平安時代にさかのぼると、福井が都市文化の中心だった。それから、石川県ができて石川県というか能登の方に分れて、そういう歴史の繰り返しの面もあるので、福井市の夢と希望を捨てずにやはり努力していけば、必ずまた芽は出ると思うんですね。今、原子力発電が美浜にできましたけど、あの時分、福井県議会としても1票差できたのが、賛成多数で議決して原子炉ができて、それが今環境に非常に役に立っていると。

だから、貧困の中からも素晴らしいものが出てくるんじゃないかと思ったりもしているんで。何か福井ちゅうと、人よりも恥ずかしいとかそういう思いで一時極端にあったようなこともありますし、それを見失わないように、しっかりと行政がアプローチしながら、鼓舞していくのが必要ではないかなと。そのうちにまた必ずやいいものがあそこに育まれて、育っていくのではないかなと思いますね。

---

#### 高田部会長

はい、ありがとうございます。いろんな言葉が皆さんの心に留まっていいる、というご意見もいろいろ出ているんですけど、ほかにも何かありますか。

---

#### 高畑委員

この件で、ほんとで実は、僕の知り合い、何年かに1度、座談会ではないですけ

ど話をしたときに、「それなら、おめーそれをするのに500メートルで何をやるんや」と言うたときに、それは、僕らはこれをしたいという思いだけは希望として出すんやけど、あとは行政の方でやってもらわないといけない問題でしたときに、その人たちも「うーん」と納得してくれたんかどうか分かんですけど、結局、理想だけで、ちょっとパブリック・コメントに書いてあったような、結局、理想ばかり言っても、実際にそれが将来生かしてくれないと、何もならんのかなと思うんで、そういうところは太い参考にしていただいて、実のある福井市になってほしいなと思いますね。

#### 高田部会長

---

パブコメもさっきありましたように、理想を掲げて一応それに向かって歩いていくっていう、そういう。それから、もう少し現実味を持った方がいいのか。何かいろいろそれによって、語り方も違うというところはあるんだな、と思うんですけれど。ほかに何か、これだけは私としては言っておきたいということがありますか。これはいいという意味でいろいろ賛同を言っていたいたようなものもありますし、あるいは若干こう変えてそれを利用してこんなものはいかが、というのもあったんですけど、よろしいでしょうか。

#### 高畑委員

---

これを書くにおいても一つ書きたかったのは、結局、行政は地域をくくる、っていうんですか、けども、昔は小学校単位とか公民館単位とかいって決めていたみたいですね。もちろん行政の人もようお分かりだと思うんですけども、最近核家族で地域がだんだん広くなって、小学校へ行くんでも、だーっと端から行かなあかんような、要するに学校自体も少なくなってくる状態やし、そういうことも考えていただいて、500メートル範囲のことも掲げて、やっぱし、小学校の単位とか公民館の単位では、ちょっと解決できない問題がこれから出てくるんじゃないかなと思うんですけどね。そういうこともやっぱし。そうせんと、昔と一緒にのことはやっていると、だんだんといくらやっても、うまくいかんのではないかなと思うで、そういうところもちょっと考えてほしいなと思いますね。

#### 高田部会長

---

ある程度大きくしないとなかなかできないというものもあるんでしょうけれども、でも、生活の側から眺めるとあんまり離れていくとなかなか難しいという説明のものもないわけではないということはあるんですけどね、はい。他はいかがでしょうか。まあ、第1部会でこれをつくるというわけではないので、他のところのものをざっと一応お目通しいたきますかね。説明していただくわけにはちょっといかないの。

第2部会の1ページ目ですけど、「明るくひらかれた快適都市 ふくい」と書いてあります。コメントとしては、「福井の市民意識調査によれば多数の市民が中心市街地の賑わい復活を最も望んでいます。これがなかなか進まない理由の一つとして、ある種の閉ざされた雰囲気が福井にあるためではないかと感じています。これは、地方都市としてやむを得ないことではありますが、北陸の冬の暗

い天候のイメージがこのような雰囲気と重なっているように思います。賑わいを取り戻すために福井が変わってゆかねばならないとすれば、日本の各地は世界から人々を受け入れて、ともに快適に暮らしてゆける明るくひらかれた姿勢が大切だと思います。今後の10年や20年で、否応なしにグローバル化が進みます。日本から世界出て行くグローバル化もありますが、世界から日本に入ってくるグローバル化も並行して起こります。海外からの観光客や出稼ぎとともに東アジアなどから企業進出も大いにあり得ると思います。日本海と東アジアの国々と結ばれた福井には、このようなグローバル化の波を受け入れられる懐の広いまちづくりを長期的に目指すことが重要だと思います。ということで、「明るく開かれた快適都市 ふくい」。

それから、続けて第2部会のだけ見ますが、「近未来創造都市 ふくい 皆でこれからのまちづくりを考えようではないか 子供たちに豊かなまちを残すために」。「自然環境、他文化交流、地域産業、文化創造、市民と行政が連携して、まちづくり新ヴィジョンを描きましょう。国際化が進む中、他文化との相互理解を深める。語学教育の新カリキュラムの導入。ふるさとの自然を守る環境教育。市民の知恵と行政の協働で暮らしよい創造都市を目指します」。「近未来創造都市 ふくい」。

それから「福祉、環境にやさしい生活快適都市『ふくい』」。「いまや、人口動態は少子高齢化社会と進み、今後、益々この傾向が増大する。これら状況を踏まえた都市づくりがいま求められる。環境づくりは、保健と福祉分野にわたる総合的な計画で、子供から高齢者までの、各々のライフステージに対し配慮されたものである。また、推進の過程で地域の特性を活かし、企業をとりこみ経済産業の発展に結びつけば、福井市の活性化の一環にも繋がる。都市の活性化も、人々の健康なくして成り立たない。人が元気であれば、また地域も活気づく。「物」中心の社会から「人」中心の社会へ、すべての人にやさしく、人を大切にする都市づくりで、高齢者対策やバリアフリーなど、福祉の充実を図り、人間が人間らしく生きるための社会環境整備を図り、健康で快適な質の高い他都市に勝る生活快適都市「ふくい」を形成する」ということで、「福祉、環境にやさしい生活快適都市『ふくい』」だそうです。

その次のページにあって「夢や希望を共に育み、安らぎのある暮らし、活気あふれる都市へ」。「地域主権へ向いつつある国政を踏まえ、私達福祉市民はしっかり自立、自律しなければなりません。その為には、すべての老若男女、農、工、商業、学、流通、医、福祉などあらゆる職業従事者と資本の行政への協力、参加が不可欠となります。また少子高齢化が進む中で、相互扶助の精神とシステムを築き、機能させることが望まれます。「夢や希望を共に育み」の中には、最小のコミュニティーである家庭から、公教育や、世代間交流、異種事業者交流などの比較的規模を大きなコミュニティーにおいて、理想の暮らし、都市像を思い、それに向かって歩いていく方法などを市民自らが考える環境を創りたいという願いを込めました。民主的な地域の運営や都市計画には、行政のイニシアチブが益々大変重要になってきます。今までのような縦割りでは、効果的な市民参加は

望めません。横の連携を密に行うことにより、臨機応変に無駄のない人的、資金的投資を行えば、形骸化しない。活きた「活気あふれる都市」が必ず実現すると必ず実現すると考えます。財政面の健全な運営にも市民のチェック機能を活用して無駄を省いた上で、地域内での再配分が効果的に働くと、それは「安らぎのある暮らし」へ繋がろうかと想います。そして、笑顔があふれる魅力的な都市には、居住者が流入して来ます。以上、消費し消化する今までの下方スパイラルの協働から、造り上げ育む上昇スパイラルの政治への転換を図ってゆきたいという気持ちで将来都市像を考えてみました。」ということで「夢や希望を共に育み、安らぎのある暮らし、活気あふれる都市へ」。

それからその次に「人に 自然に 文化に やさしいまち ふくい」。「近年の高齢化社会から町のいたるところにバリアフリーを見るようになった。しかし、まだ整備が完全ではないのが現状だと感じる。そこで、バリアフリー化により、高齢者の方だけでなく、福井市民の危険を軽減することで、人にやさしいまちを作り、一方で開発を進めることで弊害として生じる自然破壊を抑え、市民と手を取り合って環境美化を行うことで、自然にやさしいまち作りを目指す。また、福祉には歴史的に重要なものがたくさんある。そこで、そういった財産をこれから先も残していけるような活動を積極的に行うことで、文化にもやさしい町づくりを目指す。」ということで「人に 自然に 文化に やさしいまち ふくい」だそうです。

ここで、皆さんの心にとまるものとか何か、ございますでしょうか。共通しているところも、コメントの中にはいろいろあるなという感じはしているんですけど、それをどういう言葉で表現するのがよろしいかということも、いろいろあるんだろうと思います。

それから第3部会です。「共に手を携えて、活気に満ち、文化の香り高い、生活安心の都市 ふくい」これは、コメントがありません。

それから「人がまちを育み、まちが人を育む環境のある都市 福井市」。「福井市の子ども達には、将来福井市のまちづくりの担い手になってもらいたいと思います。その為に、例えば以下のことを行います。福井市の魅力を伝える。幼い頃からボランティア、市民活動に参加、経験を積んでもらう。行政がさまざまな組織と連携・協力し、「人を育む環境づくり」を行い、将来の福井市の基礎を築きます。」ということで、「人がまちを育み、まちが人を育む環境のある都市 福井市」。

それから3番目「笑顔 あふれ 輝き合うまちふくい」、「20年後30年後も笑顔があふれ、輝き合う、活力に満ちたまち、ふくいを目指します。安心安全で、住みやすいまちには笑顔が生まれます。もちろん、そのためには、生活の安定・雇用の安定は欠くことができません。また、人と人との結び付きが薄くなっているという状況の下、行政での施策はもとより、地域においても、ともにサポートし合う体制づくりは今後ますます必要となってきます。将来の福井を担う子どもの教育支援、福井のよさを再発見・再認識するさまざまな施設の充実、インフラの充実等、福井を愛する人づくりまちづくりも不可欠です。経済的での安定、地

域等における支え合いによる精神面での安定は笑顔を生みます。自然環境・生活環境に恵まれるすみよいまち、いきいきと学び、働き、年齢を重ねても生きがいを持って暮らしていけるまち、ふくい。多くの人とのつながりの中で互いに刺激し合い、喜び合い、成長し続ける、輝き合うふくいのまちを目指します。」というところだそうで、「笑顔 あふれ 輝き合うまち ふくい」。

それからその次「たくせ 未来へ 活気あふれる成長都市 福のまちふくい」。「たくせ未来へ。成長する都市は子どもが豊かに育つ都市、次世代にむけて持続可能な都市であり、常に子どもたちの未来を考えて、まちをつくっていくとする意味でもあります。活気あふれる成長都市。少子高齢化により福井市の人口減少は避けられません。自治体の先細りは目に見えてきます。だからこそ市民ひとりひとりが福井市を担っているのだという意識が必要です。それぞれの役割を活かした協働を積極的に進め市民自治を目指していきます。高齢者や弱者に優しく住みよい都市、生き生きと働ける都市は人々が行き交い、活気あるコミュニティが生まれます。北陸特有のイメージを住民の意識で明るく活発にしていきます。広い年代層が関わりみんなで作るまちは常に成長し続けるまちであります。

「福のまちふくい」福とは幸福であり、幸福であるためには毎日の生活が安心して暮らせなくてはなりません。また福は関連して豊かさを表すものと捉えました。福井市は自然、文化、歴史が豊かなまちです。またこれらを大事にすることで人々の心が豊かになりお互いを思いやることができれば幸福につながります。(福とふくいを重ねることで後に続く「ふくい」を強調しました。)、 「たくせ 未来へ 活気あふれる成長都市 福のまちふくい」 だそうです。

第3部会の次のページです。「みんながともに手をつなぎ、安心と笑顔あふれるやすらぎのまちふくい」。「市民協働や公共交通ネットワーク、公民館を中心とした生涯学習と地域づくり、周辺都市との連携など、つながりのあるまちづくりを目指す。未来が見える政策を展開し、市民協働の視点での施策を計画的に着実に進めることで市民に笑顔が生まれ、安心して暮らせるまちづくりを目指す。福井には海、山、遺跡等豊かな自然があり、中心市街地には県都としての都市機能がある。それぞれの地域が自分たちの住む場所に誇りと愛着を持つことで、より魅力的な地域ができあがる。それらを公共交通ネットワークで結び、行き交うことで、みんなが「賑わい」と「やすらぎ」を実感できるまちづくりを目指す。つくられた商業施設での「賑わい」創設は持続性がないと思う。地味でも日常生活圏の中で、しっかりと定着したまちづくりを目指す。」ということで「みんながともに手をつなぎ、安心と笑顔あふれるやすらぎのまちふく」。

それから次「未来をつくる自然・安心・協働のまち福井」。「未来をつくる」は、この5年間で福井市の未来ビジョンを作る必要を表現。「自然・安心・協働」は、今、福井市がアピールできること、これからアピールしていくことを表現している。」ということで「未来をつくる自然・安心・協働のまち福井」。

それから、第4部会は2つです。「ともに手をたずさえ、笑顔が輝き、健やかに暮らせる生活安心都市 ふくい」。「ハイレベルで低コストの福祉、介護システムの構築。互助の精神で地域に根ざしたボランティア、NPO法人と連携した福

祉、介護制度の構築。都市型産業の誘致、育成による就業機会の充実。世帯当り収入の更なる増加と、Ｕターン、Ｊターン率日本一を目指す。知育、体育、生涯学習で日本一を目指す。健康長寿日本一を目指し健康ウォーク、マラソン、サイクリング等既存諸事業をさらに充実させる。」ということで「ともに手をたずさえ、笑顔が輝き、健やかに暮らせる生活安心都市 ふくい」。

それからもう一つ、最後ですが。「心豊かに自然と共生し、次世代に引き継ぐサステイナブルシティ（持続可能都市）ふくい」。「誰もが生きがいと安らぎを感じることでできるまち、先人たちが遺した文化や知恵を受け継ぎながら、心豊かで創造性に富んだ人を育てるまち、地球規模で環境を考え、自然とともに生きるまち。５年後だけでなく２０年後３０年後も持続し次世代に引き継ぐことでできるまち。そんなまちを、市民が主役となつてつくります。」ということで、「心豊かに自然と共生し、次世代に引き継ぐサステイナブルシティ（持続可能都市）ふくい」ということだそうです。

それからもう一つ、この部会の森下さんが、ＦＡＸで「私の考える福井の将来都市像」これですね。書いてきておられて、「すべての人と自然。物語になる都市。輝くふくい」、「すべての人が自然を大切に。安心して暮らせる福井。福井の街から色々な物語りが生まれ、全国に発進、アピール出来る都市を目指したい」ということだそうです。

以上ざっと見てきたのですが、皆さんの心に留まったものなどあれば、ぜひ、ちょっとここら辺はどうかということをお聞きしておきたいと思いますが、いかがでしょうか。ご本人がいらっしゃらないので、２、３、４のところは、読んで内容ということなんです。

#### 堀内委員

---

できれば、いろいろと並んでおりますけど、それをいかに実現するか、ですね。

#### 高田部会長

---

これは、前はどんなふうにして作られたんですか。こうやって、やっぱりどれか１ついいのを選ぶという形なのか。それともやっぱり、ここと何かで、最終的には、くくるという言い方はどうも、選んで、チョイスをして、皆さんにいろんな感動を与える言葉で、中身はある程度表現できるというものを選ぶんですか。前は、交・響・楽何でしたっけ。書いてありました。

#### 事務局（吉村室長）

---

交・響・楽・彩。

#### 高田部会長

---

そうですね。これはキャッチフレーズですので、具体的なうんぬんっていうのも、なかなかだなんていうのもあるんですけど。だけど、人々にとってイメージしやすい。「交・響・楽・彩 ふくい」ですか、前は。今度は、これに代わるものを何か作ろうという話らしいんですけど。どうかということで、いろんな形で、皆さん、今お考えいただいているんですけど、どうしたものかと。この

中で結論を出して、これにしましょうというわけにもいかないし、ちょっと難しいなと思うんです。

前に、市として一応お考えいただいたものと、それからもう一つは、パブコメで出てきた提案等もあるんですよ。これは、第六次のところに、一応仮にということだと思えるんですけど。例えばこういうものをというので、第六次における将来福井市像の案として「共に手を携え、笑顔が輝き続ける生活安心都市ふくい」と。それで、パブコメからいろんな意見が出ていました。パブコメでご提案があったのは、この中に書いてあります「笑顔が輝き 活気あふれる生活安心No.1都市 ふくい」というのがあるんです。

それで、その次はどうするんだっていう話ですけど。どうしたものでしょうか。

事務局（吉村室長）

---

確かに、いろいろ説明文を見ていると、それぞれ非常にいいことが書いてあって、なるほどなと思う部分が多いんですけども。今回は、こういうふうにいるいろいろ出していただけるなら、それぞれの部会である程度、3つぐらいずつ出し合っていて、それを、また最終的には、調整会議の方でもんでいこうという進め方を、こちらとしては想定しています。

ある程度、3つぐらいに絞る中で、いろんなものが出ていますので、フレーズとか、こういうのがいいなとかいうのがありましたら、ちょっと組み替えていただくとか、そういったこともあると思います。最終的には、そういったものを集めて、また調整会議の中でいろいろお考えいただきたいと思います。

先ほど、今回はどうだったんだというお話がございました。前回も、一番最初の素案と言いますか、諮問案では、それとは全く違う別のものでございました。それを元にいろいろ審議会の中でご協議をいただいて、途中経過は分からない部分があると思います。全体としていろいろな案が出てきたんだと思いますけれども、今回は、中にコピーライター風の方がいらっしやいまして、そういうまとめ方をしていただいたような形です。

そういう意味ではちょっと斬新な感じですが、逆に言うと、その言葉だけではなかなか分かりにくいという評価も、若干いただいた。回りに書いている文を読めば、なるほどなという。交・響・楽・彩だけを見ると、きれいな響きですけども、よく分からないという風な思われ方もされる方もいらっしやった。

今回は、こちらで素案は作りましたが、委員の皆さま方のお知恵を拝借して、何かいいものを作っていただければと思っております、そういった形で、それぞれの部会でもんでいただいたものを持ち上げて、さらにもんでいただこう。そういう考えでおりますので、よろしくお願いしたいと思います。

高田部会長

---

さっきから、何人かの委員の方々から、要するに大事なものは、どうやって実行していくことだとおっしゃっておられましたが、そのとおりだと思うんです。たぶんキャッチフレーズを作るのは、総合計画を少し皆さんが見てみようかという気分させるという、そういう意味合いもあるのかなと思います。そのキャッチ

フレーズだけで、ある程度は中身を体現するにしても、それだけで何か実効性のあるものを語れるのも、なかなか難しいところはたぶんあるんだろうと思うんです。ですから、そのこともちょっとご配慮いただいた上で、少しご意見をいただければと思うんです。

今出てきたものだけ見ても、相当な数があります。例えば、これをまたなぶってもよろしいということですけど、最初、5、5、6、2なので、18。それから、パブコメで出てきたのが1つ。それから素案として1で、全部で20ぐらいあるわけですね。それからまたさらになぶっても、ということで、できれば、この部会から「これいいんじゃないの？」という形、あるいは「この言葉を生かそうよ」といったようなものを、3つぐらい何とかできないですかねというお話なんですけど、いかがでしょうか。

この委員の皆さん方からは、いろんな思いが聞けたので、そこではいくつかいろんなご意見をいただけたなと思うんです。ただ、ほかの方のは、パッと読んだだけです。なかなかちょっと、というところはちょっとあるのかなと思うんです。どうでしょうか。何か皆さんのほうで案が。私は、こういうのは至って不得意とする人間なんですけど。何かいい案があれば、ご意見があれば、ぜひお聞かせいただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

---

#### 谷口委員

あんまりいい案ではないんですけども。これ、今日で5回目か4回目で、ずっといろいろ話を聞かせてもらって、文面を読ましてもらっているのだけれども、福祉保健関係と社会教育関係が80%ぐらい占めてしまっているんでないかなという感じを持つわけ。もう少しいろんなことに対しての見解というものを、出していったほうがいいんじゃないかなという感じを受けるのだけれども、その方はどう思ってる。

---

#### 事務局（吉村室長）

福祉関係が80%というのは、この都市像の言葉の中でということですか。

---

#### 谷口委員

この、今聞いた話なんかでも。今何でこんなことを言うのかといったら、これは先生が言われた、お互いの資源を生かすとかって書いてありますけれども、これは文面を読んでいくと、市民と企業が手を結んで、お互いの資源を生かそうってということで、話し合いの中でということになると思います。

ほんなら、本当の自然の資源のエネルギーでなしに、自然の資源の活用というのはどうなっているんやと、ここに問題点が出てきてしまうんやね。抜けてしまいうんで、これから、福井市の10年20年あとになってくると、自然の資源の活用というものは、非常に大事になってくる時代になってくると思うね。特に合併したおかげで、山が増えてきたということで、自然のものが非常にいっぱいあるということで、そういうことを考えると、何か一つ方向性が偏ってきているかなあという感じを持つんやけども、その辺はどうですか。

---

#### 高田部会長

見方にもよるのかもしれませんが、少なくともほかのところはちょっと分かりませんが、第1部会の方々からいろいろお話しいただいた中では、言葉の中にいろんな、キャッチフレーズですから、そんなにたくさん、どちらかというと響きのよい言葉を選ぼうというのがたぶんあるので、その中に、例えば「誇り」とか、あるいは「活気あるまち」とか、そういう中にいろんなものが込められているところはあるのかなと思うんです。

「経済の活性化」と言うときに、もちろん産業だけではなくて、おっしゃっている事柄も、自然の素材を生かした上での産業の活性化といったような事柄も、お話しになっておられるのかなとも思うのですが、そういう意味では、全く入っていないわけではないだろうと。8割2割か何かというのは、この言葉だけでは、なかなか何パーセントがどうしたって、キャッチフレーズなので、そこがちょっと難しいところなんです。

---

#### 谷口委員

今、言われたとおりに、この1つの言葉を出すと、これにもこれも含まれていますよ。言い方は、市民に受けるかということなんですね。単刀直入にバチッと言った方が、分かりやすいんじゃないかということが一つあると思うんです。

私としては、この言葉を1つ言えば、これも、これもこれも含まれています、と言うんなら、おかしくなってしまう。きちっとはっきり言ってあげたほうが、市民には分かりやすい。こういうことでないかと思えるね。

すべて含まれるということになると、「私たちのまち、ふくいは誇れるまち」なんて言うと、全部含まれてしまうもので、その辺を明確にしてあげたほうが、分かりやすいんじゃないかな。

---

#### 高田部会長

なるほどね。例えば、すると、どんな言葉を含んでいたらいいんでしょうか。

---

#### 谷口委員

その辺が非常に言葉遣いが難しいので、それもさ、ここで考えるべきやと思う。先生は頭のいいところで。

---

#### 高田部会長

私は特に。

---

#### 三ツ屋委員

だから、今おっしゃられたように、福井市として、本当に20年30年先を踏まえて、全国にアピールするっちゃうことも含めて、何か打ち出していきたいっていうふうな思いがあるのかっていうこととも関係してくるのか、という気もしないことはないんです。

---

#### 高田部会長

そうすると、キャッチフレーズのときに、どういう傾向を市としては期待され

ていますかという、ご質問でもあるわけですかね。

---

三ツ屋委員

そうですね、逆にね。

---

堀内委員

福井というのは、やっぱり「福の井」っていう漢字ですわね。やはり水、これからそういう環境面では、水資源の確保というのかね。そのためには、森も海もつながってくると思うんですけども、そういう都市像が、配慮しながら生かしていくものが必要じゃないかなと思うね。

過去には、芝原用水とかそういう水路があって、それによって市民が潤って生活が満たされたけれども、それからあとには、福井は水源が豊富なので水道が普及しましたわね。そういう歴史は、いろいろと時代に添うて、いろんな文化とか科学の発達によって変化をとげ、やってきたんですけどね。それを見詰め直したキャッチフレーズにすべきかなと、個人的には思うんです。水っていうのは大事じゃないかなと、思うんです。

今ここで出せたって出せるものじゃないし、まだまだ学歴の高い方もいらっしゃるので、コピーライターとかそういう方々に一考願うのも、一つはあるかとは思います。

---

高田部会長

先ほどおっしゃったことで言うと、20年後30年後の福井市としては、産業の活性化をどんどん伸ばしていくことを、念頭に置いているのかどうかということですか。

例えば市民意識調査なんかから言うと、高齢者福祉なんていうのは、強く残ってきているというあれですよ。だから、先ほど出てきたような、ああいうのが重要なと。

一方では水も重要ですよとおっしゃるし、それから若い人にとっては、やっぱり仕事だよというのもある。それから、自然素材を生かしてというのもある。そうすると、そういう言葉を交・響・楽・彩というような案で、何か入れた方がいいんですか。

---

高畑委員

福祉っていうのは、もう当然のことですんで、別にあえてこんなことをキャッチフレーズで言う必要はないと思う。それよりは、今、刀禰さんが言ったように、福井が輝いて楽しいまちになるという、将来という、子どもに対してもそういう夢を与えられるような、何かそういうまちづくりの方を、もっとアピールして、一つずつ細かいのをどうのこうのって言っているのでは、違うのではないかなと思っているので。

---

高田部会長

総合計画の中身は、それぞれの部会の中でワーッといろいろ考えられたように、

第1部会だけではなくて、たくさんあるわけですよね。それを、第1部会のキャッチフレーズではないので、全体の、第六次の計画案のキャッチフレーズということだそうなので、だから、入れようというといろんなものが入ってくるのかなと思います。どうでしょうね。

#### 堀内委員

---

どういう方面に力点を置くかだと思います。やっぱり経済の活性化っちゅうか、福井はもともと中小企業の多いところですね。ですから、そういう面の活性化と育成というのは、もっとも重要な問題だろうと思います。やはり経済がよくなれば、福井の経済も生活も満足度が高まらないと思います。そこらあたりも配慮すべきだなと思います。もともとあんまり企業誘致に熱心でなかったのが、かえって福井には良かった面もあるのかもしれないけれど。

経済は生き物ですから、絶えず変わりますから、あった企業が倒産して元も子もなくなってしまうということがありますので、なかなか難しいなと思います。

#### 高田部会長

---

そうですね。ただ、福井の良さの環境とかおいしい食べ物とかっていうのは、あんまりごみごみしてきたまちの中には、想像つかないということも、あることはあるんです。どの程度だったらいいいのかなということはあるんですが。

いかがいたしましょう。この言葉はぜひ入れた方がいいという、言葉があれば。さっきのは、水ですって。「福の井」も水とか。

#### 堀内委員

---

私は水だと思いますね。もう水が命ですから。チリ地震では、水とそういうものを工夫して生きながらえている。まず災害があったら、水がなければと思いますが。しかし、それだけで生きていくわけじゃないから。

#### 加畑委員

---

今、水の件が出ましたけど、今年は非常に天候が、日差しがきついからね。もう10年も15年も前から、川の水が減っているんです。今年なんか全然、あれだけの天候が続いても、水が減らないということです。でも私は田舎ですから、どういうわけやと言いますと、やっぱり山の雑木ですね、それを皆、世話しない。生えてどこへても根がずっとあるから、水が耐えないんやと言っていますわね。そういう山の守り方っていうのを、一つ勉強しなければいけないのじゃないかなと、そういうふうに思っています。

言葉ではいいこと言われても、実際そういう山とか山村に住んでいる人が、関係のある人にそういうふうに力を入れてもらうというふうなことも。

#### 堀内委員

---

しかし、平地も最近、学校なんかでも2階建てまでは木造にするとか、そういう案も出ていまして、森林を守るという意識も、また芽生えてくるんじゃないか

なと思います。

もともとコンクリートの建物にすれば災害に強いというようなことでしたけれども、コンクリートのマンションに住んでおられる方は、夏だけじゃなしに、9月や10月ごろまで暑いんだ、冬は5月ごろまで寒いんだという話を聞かされましたので、やはり木造というのはいいのかなあ、でも災害には弱いしなということで、それを併せた新しいものができてくるのかなと思います。森林を守るとは水を守ることになりましょうし。

谷口委員

---

余談になりますけども。今、水の話が出たんやけども、去年ですか、たぶん華僑だと言われているんですけども、福井市の水があるでしょう。あれを何百万本単位で売ってくれという話が出てきた。中国へみな持って帰るという話やと思うんです。福井市としては一応もう断ったということで、とてもまかないきれんと。ダムを1つ止めてやらんことには駄目でないかということで。これだけ水というのは大事になってきているというのは、間違いなくなってきましたね。

堀内委員

---

ますます水が不足しているということなんです。昔は、水を買うなんて想像もできなかったじゃないですか、スーパーへ行って。

谷口委員

---

山へ行くといくらでも出てくるのが水。

加畑委員

---

今は。減らんから。

堀内委員

---

だけど大野は渇水しているんでしょう、夏になると。

加畑委員

---

今年なんか、これだけ天気続くと、田んぼに水はないでしょう。今年はもう全然そんな心配なかった。昔は山の木やら切っては、焚くもんにしたんやね。

堀内委員

---

いいお米を取るのも、やっぱりいい水でないと駄目なんだからね。濁った水では、やっぱりいいお米にならない。もちろん、朝と日中との寒暖の差も必要でしょうけれど、そういうところは、やっぱりいいお米が取れるということでしょうけど。

高田部会長

---

それで、どうしましょう。

堀内委員

---

そこでまとめてあげなあかんのですか。

谷口委員

---

先生が作ったほうの中に、「希望と誇りのある」ってあるけれども、この中に、自然資源の活用というのを入れていったらどうですか。自然資源の活用となれば水も入ってくるし、もちろん森林も入ってくると思うし。

堀内委員

---

だんだんとボランティアも活発化して、盛んにやってきているから、そういう森林の方もだんだんと力が入ってくるんじゃないかなと思います。

高田部会長

---

どうでしょうね。この中からどれか選べというわけにもいかないし。

谷口委員

---

1から4までの中に、自然という言葉が出てくるけれども、資源の活用という言葉は1つも出てきてないんですね。さっき読んでみたけれども、出てきてないので、それは、第1部会でここに入れていったほうが、いいんじゃないかなという感じがするんですね。

高田部会長

---

自然資源の活用。

谷口委員

---

自然資源の活用ね。自然資源の活用という言葉は、良いか悪いかは知らないですよ。

堀内委員

---

自然という言葉がいいかどうかは別として。自然と都市との融和というか、それによる。

谷口委員

---

パッと聞いても、パッと分かりやすい言葉に。

堀内委員

---

そうそう。音楽的に言うと、どういう。ハーモニーとか、何かこう、音楽はいい酒を造るとかって言われている。モーツアルトかな、あれは。何かそういう醸し出すいい言葉がないですか。何かあるんじゃないですか。時間がないんで。

谷口委員

---

良い考えが出てくるんじゃないですか。

高田部会長

---

いえいえ。

堀内委員

---

そこはもう、本当にもう時間をかけて。

事務局（吉村室長）

---

それから、都市像って、こういう言葉が出ますけれども、その説明として、今言われたように、そういう意味も含んでいるということは、説明書きで下の方に付いているという形になります。言葉足らずの部分は、そういったところで補いながら、こういうまちを目指しますっていうようなことは、説明で当然入るような形になります。この文だけですべてを表すということではございませんので、そういったことも踏まえながら、またご議論いただければと思います。

キャッチフレーズといいますか、そういう言葉ができた場合に、必ずこういうことは入れてほしいと、そういったことも、また付記すればいいものだと思います。

堀内委員

---

それによって連想して期待するような、キャッチフレーズがいいんでしょうね。ああ、いいなあ。そういうキャッチフレーズでいくっていうのは、私から見て、これにもつながるし、おまえが考えているそれにも関連してくるんじゃないかって、なるのがいいんでしょうが、難しいところです。

高田部会長

---

今ここに書いていただきました。水とか森林とか、自然資源の活用とか、自然と都市の融和とかハーモニーとか。今皆さんが言っている中では、そういうのがちょっと入っていなかったのではないかな。そういうのを、都市像の中に入れるかコメントの中に入れるかは別として、入れたらどうかというお話ですよ。

それで、3つぐらい選べというお話なんですけれど、いかがいたしましょうか。

堀内委員

---

キャッチフレーズを3つも選べと言うんですか。

高田部会長

---

ええ。

堀内委員

---

それは厳しい。

高田部会長

---

その中で、これが足りないよとか、この言葉はちょっと直したほうがいいよというのがあれば、また入れていただいてもいいんだろと思うんです。それで、各部会から選んだものが重なるか重ならないかは別として、そこからまた調整会議か何かで選んでいきたいというお話のようなんですけれど、いかがいたしましょうね。

事務局（吉村室長）

---

言葉としてまとまらない場合は、どうしてもこういうフレーズだけは入れてほしいっていうような出し方でも、それはそれでいいと思います。

#### 高田部会長

---

どうでしょう。このフレーズは入れたいというものはありますか。さっきの話だと、「かえりたくなるまち ふくい」の中のコメントに、いろんな、皆さん、ご意見をいただいたと思います。それからあと「ともに創ろう高齢者が輝く地域とくらし」も、いくつか賛同の意見なども出ていたようには思っています。あと文言としては、「歴史」とか「誇り」とか、そういうものがあるのかなと思うし、それから生活面というか、あまり数字が入るのはあれかもしれませんが。そういうものでよろしいですか。それとも後、あるいは市からの素案とか、パブコメの案とか。コメントの中で、さっき「活気あるまち」それから「日本の心」それから「高齢者が輝く」それから「誇り」それから「自然資源の活用」、「自然と都市との融和」ですかね。そういうものが入ったコメントが出てくるような、キャッチフレーズ。

#### 堀内委員

---

前回みたいな、「楽・彩」みたいな言葉になってくるね。そうじゃないと、言葉はつくれないですよ。

#### 高田部会長

---

どうでしょう。何かご意見。簡単なのは、どれか選ぶっていうのが一番簡単なんですけど、選ぶとなると、たくさんあるのでなかなか難しいと言えれば難しいんですけど。

#### 堀内委員

---

若い感性でどうですか、何か。「日本の心」は。

#### 刀禰委員

---

難しい。でも、「誇り」という言葉は、私はすごくいいなと思いました。私自身、県外に遊びに行くときに、福井弁を出さないようにしてしまう癖があって、それはやはり、私自身に福井県民としての誇りが無いっていうことにも、つながっていると思うので、誇りという言葉はすごく大事なんじゃないかなと思いました。

#### 高田部会長

---

どうでしょう。今この部会でいろいろ話し合って、重要な言葉がいくつか出てきていると思うんですが、さっきここに書いていただきましたような「活気あるまち」ですね。それは、特に職業ですかね。それから「日本の心」「高齢者が輝く」、それから「誇り」、それから「自然と都市の融和」あるいは「自然資源の活用」、こういう言葉でいいですか。ほかに何か、皆さんのほうでご意見はありますか。

あと、まあ「水」とか「森林」という話。これは、こちらの方に特に入っていなかったというご指摘のもとで、たくさん出てきたということもあるんだと思います。逆に言えば、ここの中で、書いてあるので省略されていく部分もあるのか

など、ちょっと思っています。

ほかに何か、ぜひこの言葉は、コメントであれ何であれ、入れといた方がいいというものはありますか。

高畑委員

---

夢。

高田部会長

---

夢。ほかはどうでしょうか。キャッチフレーズの中か、もしくはコメントの中には、こんな言葉を入れてほしいということですかね。

堀内委員

---

でも、中心になるのは、人が中心になるんでしょう。

高田部会長

---

人が中心でよろしいですね、ということですが、それはよろしいですね。ほかに何かお気づきの点はありますか。その上で、キャッチフレーズを考える、もしくは選ぶとって。

谷口委員

---

刀禰さん、言わないといけないって。「日本の心」というのを書いてきたんやで、「私のこれ入れて」って言わなあかん、強く。例えばこの後ろへ「日本の心の里」とかって、ちょっと一言入れてもらうと、福井市に合うんじゃないかな。里ということになると。

高田部会長

---

応援団。書いたんですね「日本の心」。「里」を付けるか付けないかということがあがあると思います。ほかに何かありますか。よろしいでしょうか。

堀内委員

---

ややもすると、福井というのは、先ほど話していましたように、誇りを失いがちになる。県にも結構そういうことに配慮した施策を打っておられるように、西川さんのあれが感じられます。やっぱり「夢」「誇り」「光り輝く福井の里」か「心のふるさとか」、何かそこへいくんじゃないかな。

谷口委員

---

里はちょっと田舎臭い。

高田部会長

---

その里じゃなくて、「の都」だそうです。

堀内委員

---

「さと」って「郷」って。ああ、あれもまあ郷か。

高田部会長

---

あと、ほかはないですか。

堀内委員

---

福井に大事にしたって。

高田部会長

---

これで、どういうキャッチフレーズにしましょうか。要するに、あの言葉を含めてコメントを書くということですか。あるいは、あの言葉でキャッチフレーズを作れということなんですか。この中のどれかを考えますか。

堀内委員

---

それらを一言で表現するものがあればいいということでしょう。

高田部会長

---

そうですね。

堀内委員

---

さあ、どうぞ。

刀禰委員

---

ええ、難しい。

高田部会長

---

ちょっとなかなか難しそうなんですけど、この言葉が1部会としては重要ということでは駄目なんでしょうか。やっぱり3つ選ばないと駄目ですか。3つはとにかく選ばなければ。

事務局（村田主任）

---

多くて3つということなので。多くて3つ、3つまで。

高田部会長

---

そうですか。「まで」ということで。

事務局（村田主任）

---

マックス3つということなので、もちろん1つでも結構です。

高田部会長

---

いかがいたしますか。

谷口委員

---

これを3つに絞るのか。

高田部会長

---

3つに絞るというか、この中にたくさんありましたけれど、その中から最大限3つ。3つでも2つでも1でも。

谷口委員

---

その中から、5の中から。

高田部会長

---

いえ。5だけじゃなくて、その2、3、4部会のも入れて。市の提案とかパブリックコメントのなんかも、全部で20あるんですけど、それでいかがかということなんですけど、どうしますか。

事務局（村田主任）

---

高田先生。2、3、4については、それぞれの部会で、そこで全体を見通してのテーマなんですけど、そこでまた3つまで出ているので、あまり1、2、3、4のこの中から選ぶというお考えよりも、むしろ1部会の中から選ぶというほうがいいんじゃないかなと。2、3、4はそれぞれ出てきますので。2、3、4を付けたのは、参考までにということなんで、1部会の5つ以外に、また今日新しいのが出る場合に参考にしていただく程度に付けただけですので、あまりこれ全部からって言うと、ちょっとつらいかなと思うので。

高田部会長

---

そうですね。じゃあ、5つの中から最大限3つ。2つでも1つでも。どれにいたしましょうかということに。あ、全部で6個ありますよね。森下さんのものも入っていますので、「すべての人と自然。物語になる都市。輝くふくい」というのは、第1部会から3つ出ていますけれど、いかがいたしましょうか。

高畑委員

---

ほんならちょっと言っても言い。「夢のある日本の心ふくい」。

高田部会長

---

「夢のある日本の心ふくい」。

高畑委員

---

思いつきです。

高田部会長

---

1つ出てきたということなんですけれど、全部で、それでは7つになりましたね。いかがでしょうか。第1部会で「夢と希望 安心安全な街づくり」「かえりたくなるまち ふくい」「かえりたいまち ふくい」「ともに創ろう高齢者が輝く地域とくらし」「だれもが、私のまちと、誇れる、ふくい」「希望と誇りのふるさと福井 きずながみえる市民の協働」「夢のある日本の心」「すべての人と自然。物語になる都市。輝く福井」。

堀内委員

---

この中から選ぶんですか。

高田部会長

---

うん。この中から選ぶ。

高畑委員

---

また、新たに作る、またほれをキャッチコピーで。

高田部会長

---

作ってくださっても結構です。

事務局（村田主任）

---

どちらでもいいです。

高田部会長

---

あるいは選んでくださっても結構ですし、あるいは、選んだ上でどこかを修正するってことでもありだとは思います。どうしましょう。

高畑委員

---

キャッチフレーズの福井の漢字を「ふくい」って平仮名で書いて。

事務局（村田主任）

---

どちらも平仮名にする。

堀内委員

---

「誇りと活気 虹彩 ふくい」。

高畑委員

---

ふくい、「井」は井戸の「井」でもいいですね。

高田部会長

---

「誇りと活気」。

堀内委員

---

「虹彩 ふくい」。虹彩っていうのは、虹と彩り。思い付きで言ってるだけや。

高田部会長

---

「誇りと活気 虹彩 ふくい」。

高田部会長

---

じゃあ、全部で8個出てきました。

堀内委員

---

「虹彩」は「交わる」じゃなしに、虹、彩るというのはどうかなと。鮮やかな、この。

事務局（村田主任）

---

それで「虹彩」ですか。

高田部会長

---

「誇りと活気、虹彩 ふくい」

堀内委員

---

うん。まあ「虹彩」は両方、交わる意味も含めて、欲なんやで。

高田部会長

---

ほかはいかがでしょう。7、8、8個になった。

ほかには何かあります。それとも、もうこの全部で8つ出てきているので、その中から選びます。あの2つと、こちらの5つと、それから森下さんのを入れて、こちら全部6個入れて。それでいきましょう。じゃあ、どれにしましょう。

堀内委員

---

この中から選ぶ。

高田部会長

---

この中から選ぶ。

堀内委員

---

あまり長い文章はよくないと思うんですよ。なるべく短い。例えば「ピア」という名前を作ったときもいろいろあったけれども。「ピア」、「ベル」、これがいいんじゃないのかっていう話になったことがありましたね、過去に。

高田部会長

---

新たに出てきたのが、あの2つなんですけれど、あの2つの中から選びます。どうしましょう。それとも、それぞれの、これ、いろいろ考えた中からどれか。3つまでマックス選んでいいということだそうですので。どうでしょう。何かご意見。どこかの応援とかあれば。

堀内委員

---

私は1つでも2つでも構いません。

高田部会長

---

どうでしょう。出ないと帰れないんですけど。早く決めましょう。

堀内委員

---

あと、メールもありますで。

高田部会長

---

何か応援演説をしてくれたり。

何かいかがでしょうか。それじゃあ、私は「誇りと活気 虹彩 ふくい」に1票。

堀内委員

---

福井は歴史っていうか遺産っていうか、そういうものが結構あるんですね。やっぱりそういう歴史。

高田部会長

---

ほかはいかがでしょうか。一応、第1部会から推薦っていう形で3つまで、1

つでも2つでも3つでもということで、どうでしょう。あんまり遠慮しないで3つ出します。1つでもいいんで。いかがでしょう。どうしましょう。

谷口委員

---

課長。まとめてみまい。だけど、5つあるけど、5つを2つぐらいにまとまるやろ、これやったら。

事務局（吉村室長）

---

この言葉を合わせてですか。

谷口委員

---

2つか3つにまとまると思うけど。

高田部会長

---

あとから2つできて、こちらに5つあって、森下さんのを入れて、全部で8つあるんです。

谷口委員

---

8つだけでも、2つか3つにまとまるで、みんな書いてもろうたのを目の前にして、これはあかんぞ、これが良いといって。

高田部会長

---

「あかん」ではなくて「これがいい」と言ってください。

谷口委員

---

これで、それだけ作ってもろうて、送ってもろうて、それで「○」を打って、これをお願いしますということで出すと、こういうことにしよう。

堀内委員

---

○×方式。

事務局（吉村室長）

---

分かりました。今日いろいろお出しいただいた意見をちょっとまとめて、少し文章を直したりしながら、また出させていただきます。ここでいただいたご意見で、第1部会の案ということで決めさせていただきます。それでよろしいでしょうか。

堀内委員

---

はい。お任せします。

高田部会長

---

やっぱり言いにくいですか。私出しているっていう方もいらっしゃるの。すぐくこだわることもあるとは思んですけど。

谷口委員

---

刀禰さんの応援すると、具合が悪いときがあるんで、あんまり応援できないけど。若い人の意見も尊重しないといけない、入れていかなあかんもんやで。

高畑委員

---

将来を担う若い人やでのう。福井の将来を担う、私みたいな年寄りでなしに。

高田部会長

---

じゃあ、それでよろしいでしょうか。すいませんけれど。じゃあ、これでこちらの方は終わってよろしいですか。はい、すみません。

#### 4. 事務局からの連絡事項

司 会

---

お疲れさまでございました。それでは、第1部会の意見ということで、こちらの方で、また案という形で出さしていただいて、ご署名いただいて、次の調整会議ということになります。高田先生と加畑会長につきましては、部会長、副部会長さんにつきましては、次回、調整会議にご出席をいただきまして、またそこで全体的な議論をしていただいて、最終的に将来都市像を決めるという形になりますので、よろしくお願いいたします。日程につきましては、また追ってご連絡をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

#### 5. 閉会

事務局（吉村室長）

---

どうもありがとうございました。

(以 上)